



第
58
号

発行日：2020年8月1日

発行：特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム
(大津市地球温暖化防止活動推進センター)

住所：〒520-0047 大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津4階

電話：077 (526) 7545 / FAX：077 (526) 7581

フォーラムHP：<http://eco-otsu.net>

Eメール（事務所）：forum@eco-otsu.net

＜事務局長から＞ 盛夏の候、フォーラムは制約下ながら7月からようやく事業を再開しました。盛夏に入りマスク着用による熱中症にもご注意下さいまして活動してください。一方で、政府はGo Toトラベルをスタートさせましたが、新型コロナ感染症第2波が発生。感染予防の対策を十分にとって3密を避け行動してください。みんなで昨年のように活動できる日を待ち望む日々であります。

会員数 146 名 (2020 年 7 月末現在)

トピックス

○ おおつ市民環境塾講座3「これならできる省エネ再エネ」を開催しました

7月4日、おおつ市民環境塾2020講座3「これならできる省エネ再エネ」をふれあいプラザにて開催し、15人が参加されました。講師は当フォーラムエネルギープロジェクトリーダーの山和孝氏です。感染予防のため、受付で手指消毒と検温を行い、着席は各机1人とししました。

第1部は家庭におけるCO₂排出削減策についての講義です。毎年のように異常気象による豪雨被害が起き、琵琶湖の深呼吸も2年連続で確認できず、危機的な気候変動が迫っています。

このような中、滋賀県は2050年CO₂排出実質ゼロを宣言しています。各家庭はどうすれば良いのか、具体的に、講師ご自身の体験も交えて教えていただきました。解は「機器使用時間の短縮」「温度設定を控えめに」などの使い方や省エネ性能の高い機器への買換え、太陽光発電・太陽熱温水器利用などです。

第2部は、参加者が、エネルギープロジェクト作成の小冊子「家庭の省エネ簡易診断」を使って、2030年に2013年比40%のCO₂排出削減ができるかどうか自身で診断してもらいました。車には乗る、太陽光発電は導入しない、という状況ではなかなか目標達成は難しいですが、CO₂排出量ゼロの電気を契約する手もありなので何とかなりそうです。



○ おおつ市民環境塾講座2「エコな移動で温暖化対策」を開催しました

7月18日、おおつ市民環境塾2020講座2「エコな移動で温暖化対策」を大津市生涯学習センターにて万全のコロナ対策のもと15人の参加を得て開催しました。講師は当フォーラムエネルギープロジェクトの石谷誠男氏。

前半は、次世代自動車xEV（電気で行く車；電気自動車EV・燃料電池車FCV・ハイブリッド車HVなど）の動向の紹介です。世界の自動車産業は、温暖化による気候変動転換点到来を阻止するため、「100年に一度の改革」となる電動化を推し進めています。とくに中国、ヨーロッパ、北米はEVを大きく伸ばすようですが、一方、日本やアセアンはHVが主でEVはそんなに積極的ではないようです。日本の自動車の将来を危惧する声に参加者のアンケートにもありました。ユーザーがEVを購入しやすくなるように、一層の行政の施策や国内メーカーの開発が必要です。東京都は「2050年CO₂排出ゼロ」を実現するためのマイルストーンを明示しています。滋賀県にも期待したいところです。

後半は、大津市のデマンドタクシー・カーシェアリングの取り組みと自家用車に代わる交通手段グリーンローモビリティGSM（時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の電動車）など、脱自家用車についての紹介です。過疎地域ではバス減便やそれに伴う利用者減がさらなる減便・路線廃止につながり問題になっています。高齢化で自家用車を利用できない人が増え、ことは深刻です。事業者側にも採算性や運転手不足の問題があります。大津市では、その対応として一部の公共交通利用困難地区でデマンドタクシーやカーシェアリングを実施していますが、万能ではありません。そこで、GSMについて、講師らがすでに導入された地域の事例を調査され、その内容を報告されました。実用化されれば自家用車に頼りしかなかったバス路線のない大型団地などにも適用できそうで、脱自家用車を決断する人が増えるのではないのでしょうか。GSMを大津市の交通政策に盛り込んでいただきたいと思います。公共交通は身近な難問で、質疑応答時は熱心な意見交換がなされました。



■プロジェクト等からの活動報告・お知らせ

《生ごみリサイクルプロジェクト》

7月18日、市民活動センターにてプリン石けん仕込み作業を行いました。8月21日に完成し配布の予定。

《ビオトーププロジェクト》

コロナ自粛の影響でたくさんの親子が春日山公園の池に押し寄せ、メダカやフナを乱獲していたという目撃談を伝え聞きました。案の定、池に魚影は確認できず、下流の小川で、ようやくメダカを2匹発見して、池に戻しました。イノシシの仕業と見られる穴や崩れていた階段の補修をし、草刈りも行いました。

《里山保全プロジェクト》

6月中旬、春日山公園で見慣れない虫に出会いました。最初はアリかと思いましたが、よく見ると「アリのよう」な「バッタの幼虫」です。調べていくと、今年2月に国内初発見として専門誌に報告された外来キリギリス「アリガタツユムシ」の幼虫のようです。7月6日付京都新聞には「大津市内で幼虫初発見」と報じられていました。

その後も公園内の何か所かで出会えたので、数匹持ち帰って育ててみることにしました。ツユクサを好ん



アリにはない長い触角を持つ

里湖づくり活動の自粛について

滋賀県でも新型コロナウイルス感染症 COVID-19 が再拡大し、「コロナとのつきあい方滋賀プラン」のステージが「警戒ステージ」に引き上げられました。このため、里湖づくりの湖底耕耘等は、「注意ステージ」に引き下げられるまでの間、再び自粛します。

緊急事態宣言を受けた活動自粛を6月に終え、活動を再開させたばかりでしたが、ご理解ください。活動の再開は、ホームページ等でお知らせします。

でよく食べ、すくすく育っています。最初は真っ黒でアリにそっくりでしたが、だんだん胸腹部に緑色のライン現れ始め、さらに今では顔が紫です。アリの姿に擬態して外敵から身を守るのは小さいうちだけのようです。どんな成虫になるのか、今後が楽しみです。

《エネルギープロジェクト》

7月7日、例会をセンター事務所での会合とテレミーティングを合わせた形で開催し、プロジェクトが開催する予定の講座や事業所用簡易診断小冊子、勉強会のテーマなどについて意見を交換しました。結果は、どうしてもセンター事務所参加者の発言が多くなり、また思い思いに発言されることを許容していたこともあり、テレミーティングで参加された方には聞きづらかったようです。それでもチャットなどで意見表明をいただき一定の成果が得られました。

■これからのフォーラム活動

※COVID-19の感染状況により直前に変更されることがあります。

プロジェクト等の名称	日 時	場 所 ・ 内 容
プロジェクト		
子どもが遊べる川づくり	8月 第1週 調整中	川の日「大宮川」実施内容再検討打ち合わせ
	8月 第4週 調整中	川の日「大宮川」実施準備打ち合わせ
生ごみリサイクル	8月21日(金) 9:30	市民活動センター//EM ボカシづくり
里山保全	8月 4日(火) 9:00	春日山公園//定例会
	8月13日(木) 9:00	春日山公園//定例会
	9月 7日(月) 9:00	春日山公園//定例会
	9月21日(月) 9:00	春日山公園//定例会
エネルギー	8月 4日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	9月 1日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
委員会・実行チーム・事業部		
環境すごろく作成チーム	8月 6日(木) 13:30	大津市センター//会議
	8月25日(火) 13:30	大津市センター//会議
おおつ市民環境塾実行チーム	9月26日(土) 14:00	ふれあいプラザ//講座「琵琶湖の深呼吸と生きもの」
自然家族事業実行チーム	8月 1日(土) 10:00	びわ湖大津館//びわ湖の日「湖の学校」予備日8日
	8月29日(土) 9:00	大石川の河原//下見と草刈
	9月 5日(土) 10:00	大石川の河原//川の日「大石川探検」予備日12日
	9月12日(土) 10:00	春日山公園//里山の日「里山の樹木調べ」予備日13日
	9月19日(土) 9:15	大宮川//川の日「大宮川の生きものと水質調べ」予備日27日
エコライフデー運営支援チーム	8月 4日(火) 13:30	大津市センター//作業
事業部 KES 普及推進グループ	8月20日(木) 13:30	生涯学習センター//普及推進事業チーム定例会議
	9月24日(木) 13:30	生涯学習センター//審査員グループ定例会議

* 大津市センター；大津市地球温暖化防止活動推進センター（明日都浜大津 4F）